

《平成 12 年夏の漁況を振り返って》

ばいかご漁業

石見部および出雲部のばいかご漁業は、小型底びき網漁業（第 1 種）の休漁期にあたる 6 月から 8 月にかけて行なわれており、現在 7 隻が操業しています。漁獲対象のエッチュウバイは平成 9 年漁期より県 TAC 魚種に指定され、漁業管理を行ないながら資源の有効利用を図っています。

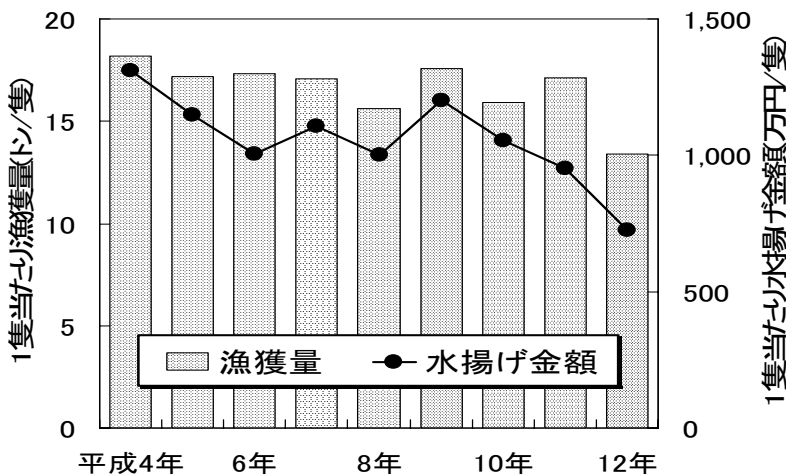


図 1 石見部および出雲部ばいかご漁業におけるエッチュウバイの 1 隻当たり漁獲量と水揚げ金額の推移。

今漁期の石見部（6 隻）および出雲部（1 隻）のばいかご漁業における総漁獲量は 127 トン（前年比 88%）、総水揚げ金額は 7,617 万円（前年比 86%）でした。またエッチュウバイの漁獲量は 93.7 トン（前年比 78%）、水揚げ金額は 5,091 万円（前年比 77%）でした。総水揚げ数は 222 回と前年並みでしたが、量・金額とも前年を大きく下回り、平成 4 年以降最低の水揚げ状況となりました。

エッチュウバイの価格は依然として低迷しており、1 kg 当たりの平均価格は 544 円で、平成 4 年以降最低であった前年（555 円）をさらに下回りました。

図 1 に 1 隻当たりのエッチュウバイ漁獲量と水揚げ金額の経年変化とを示しました。1 隻当たり漁獲量は 13.4 トン/隻（前年比 78%）、水揚げ金額は 727 万円/隻（前年比 76%）でした。前漁期は TAC 割当量に迫る経営体がありましたが、今期は解禁当初から低調に推移し、1 隻当たり漁獲量は、6、7 月に平年を大きく下回り、平成 4 年以降初めて 15 トン/隻を割り込みました。また、1 隻当たり水揚げ金額は平均価格低落により平成 7 年以降減少しており、平成 4 年の約 1/2 まで低下しました。

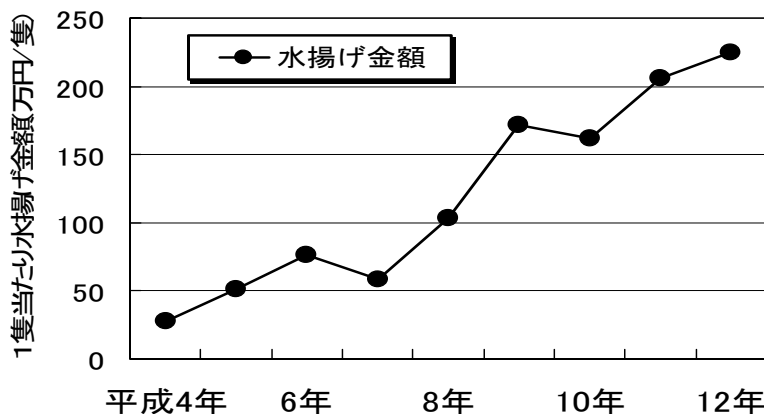


図 2 石見部および出雲部ばいかご漁業におけるエビ類の 1 隻当たり水揚げ金額の推移。

一方、エビ類（モロトゲアカエビ、イバラモエビ）の漁獲量は前年をわずかに下回る 8.2 トン、水揚げ金額は 1,577 万円と平成 4 年以降最高の水揚げとなりました。図 2 にエビ類の 1 隻当たり水揚げ金額の経年変化を示しました。漁獲量の増加とともに水揚げ金額も急増し、1 隻当たり水揚げ金額は 225 万円で、平成 4 年の 8 倍となりました。近年、漁獲増加によりエビ類の重要度がますます高まってきております。しかし、数年前より大型エビの割合が減少し、全体的に小型エビが目立ってきていることから今後のエビ類の資源動向に注意していく必要があります。

ることから今後のエビ類の資源動向に注意していく必要があります。

シイラ漬け漁業

シイラは春から夏に流れ藻・流木などに付いて日本海を北に移動し、秋には南へと回遊していきます。シイラの仲間は普通のシイラ（地方名マンサク、マンビキ）とエビスシイラ（地方名ボンゴジイラ）の2種が知られています。島根県では、シイラはほぼ周年漁獲されますが、5～10月がその盛期となっています。エビスシイラは非常に少なく、お盆を過ぎた頃に僅かに漁獲されるのみです。

シイラは釣・定置網・まき網・シイラ漬けなどで漁獲されますが、そのほとんどはシイラ漬け漁業によるものです。これはシイラが物陰に寄り添う習性を利用したもので、海面に竹を束ねたいかだを設置し、そこに集まったシイラなどの魚群を網で捕獲するものです。この漁法ではシイラだけ

でなく、ヒラマサ・ブリ・カンパチ・クロマグロ・メダイ・カツオ類・カワハギ類なども漁獲されます。

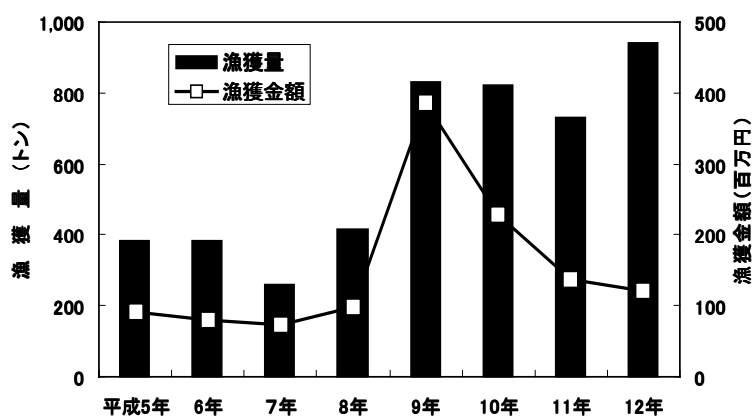


図3 シイラ漬け漁業の漁獲量の動向

平成12年6～8月漁期、石見地区（大田・和江・五十猛・仁摩・浜田）のシイラ漬け漁業の漁獲量は942トン、漁獲金額は1億2,100万円と、量は平年を約60%上回ったものの、金額は平年を20%下回りました。全体の97%がシイラでここ数年好調だったヒラマサは僅かに2%と、大幅に来遊量が減少しました。

シイラは体長45～110cmのものが漁獲されていますが、その中心は体

長45～75cm（体重1～4kg）の1,2歳魚となっていました。ヒラマサは体長40～80cmのものが漁獲されていますが、大半は体長40～60cm（体重1～3kg）の1,2歳魚中心となっていました。

トビウオ漁

トビウオは暖海性の魚で冬の間は南方で生活していますが、春になると産卵のために山陰沿岸に回遊して来ます。島根県の沿岸には春から夏にかけてやって来ます。トビウオの仲間は日本近海に29種が分布していると言われていたますが、島根県で漁獲されるトビウオはそのほとんどがホソト

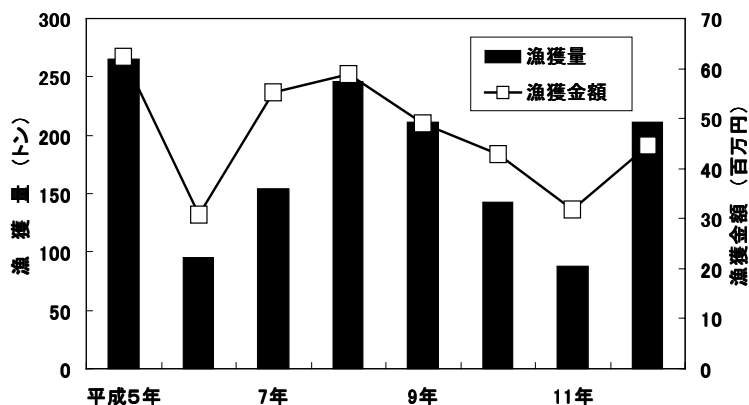


図4 トビウオ類の漁獲量の動向

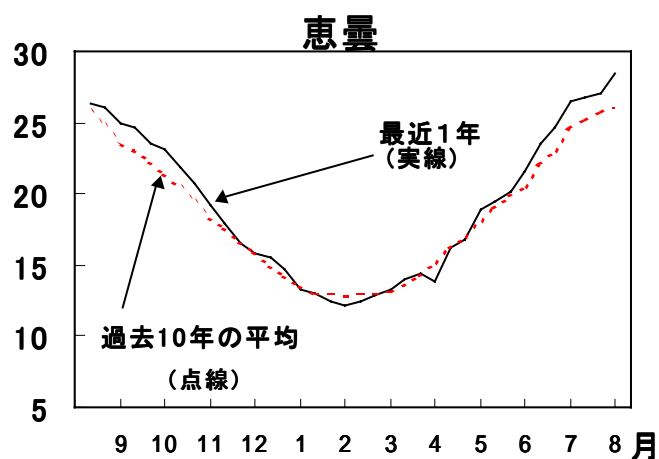
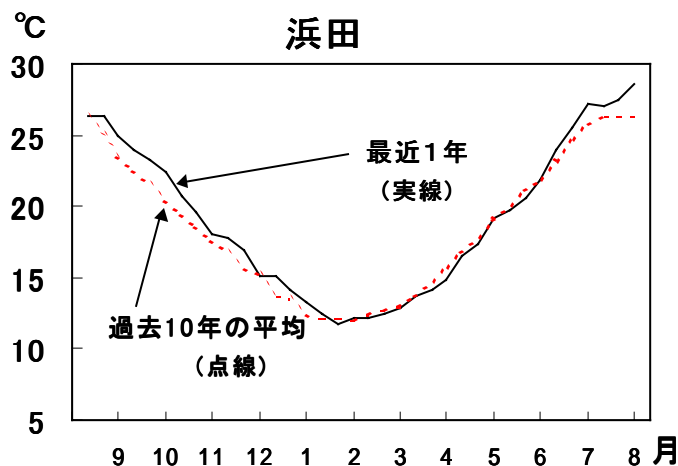
トビウオ（地方名マルアゴ、マルトビ）とツクシトビウオ（地方名カクアゴ、カクトビ）です。これらは産卵期及びその前後の5～8月に漁獲されますが、盛期は6月で、刺網・定置網・まき網・釣などで漁獲されます。

平成12年5～8月漁期、石見地区（大田・和江・五十猛・仁摩）のトビウオ類の漁獲量は211トン、漁獲金額は4,470万円で、量は平年を20%上回ったものの、金額は逆に平年を約5%下回りました。

《 8月の海況 》

| 8月 | 月平均 | 平年差 | 評価 |
|----|------|------|------|
| 浜田 | 27.7 | +1.4 | やや高め |
| 恵曇 | 27.4 | +1.7 | やや高め |

8月の月平均水温は7月に比べ浜田で2.2、恵曇では2.5上昇しました。浜田、恵曇とも「やや高め」の水温経過となりました。



8月下旬～9月上旬の海洋観測結果によると、表層では山陰沿岸部から沖合にいたるまで水温25以上の暖かな水塊に覆われて、全体としてかなり高めとなっています。中層以深では山陰沿岸部から隠岐諸島にかけて18（底層では16）以上の暖水域に覆われ、かなり高めとなっていますが、隠岐諸島西方80マイルから隠岐諸島沿岸まで張り出した冷水域、さらに隠岐諸島の北方140マイルにも冷水域があり、冷水域と暖水域の境界に沿って非常に強い潮境が形成され、潮境に沿った流れも強くなっています。

《 8月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量はマアジ主体に410トン、水揚金額は9,250万円でした。また、1統当たりの漁獲量は109トンで前年の87%、平年の91%と、平年、前年をやや下回りました。水揚金額は2,313万円と前年並でした。恵曇では、ウルメイワシ、カタクチイワシを主体に総漁獲量368トン、水揚金額は6,238万円でした。1統当たりの漁獲量は52.5トン（前年比：46%）、水揚金額は891万円（前年比：49%）と低調に推移しました。浦郷ではマアジ主体に総漁獲量354トン、水揚金額は9,217万円でした。1統当たりの漁獲量は71トン（前年比：30%）、水揚金額は1,843万円（前年比：51%）と低調に推移しました。恵曇と浦郷ではマアジの極端な不漁が落ち込みの原因となっています。

【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣り船（5トン以上）によるイカ類の漁獲量は、ケンサキイカ・スルメイカを中心に160トン（前年比：132%）とやや好調に推移しました。ケンサキイカとスルメイカの割合は量で5：1、金額で32：1となっています。魚体は、2段半～3段半（外套長15cm～20cm）が主体でした。一方、西郷のイカ釣り船（5トン以上）では、スルメイカ・ケンサキイカを中心に54.4トンの漁獲（前年比：79%）で、こちらはやや低調でした。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は202トン、総水揚げ金額は9,735万円でした。また、1統当り漁獲量は33.7トン（前年比：110%）、水揚げ金額は1,622万円（前年比：80%）でした。ムシガレイ（前年比：97%、平

年比 90%)・アカムツ(前年比:488%, 平年比:592%)・ケンサキイカ(前年比:431%, 平年比:90%)
はまとまった漁がみられました。

恵曇港の総漁獲量は51トン、総水揚げ金額は8,701万円でした。また、1統当り漁獲量は13トン(前年比:88%)、水揚げ金額は2,175万円(前年比:115%)でした。ムシガレイ(前年比:122%, 平年比:207%)・ヤナギムシガレイ(前年比:87%, 平年比:650%)・ニギス(前年比:245%, 平年比:613%)・アカムツ(前年比:754%, 平年比:777%)はまとまった漁がみられました。

【定置網漁業】

8月の漁況は各地とも低調に推移しました。恵曇港では先月号の予想を大きく外れ、漁獲量は前月の4分の1、水揚げ金額も3分の1と一昨年並の低調な漁況となりました。浜田港では前月に比べてマグロ類の漁獲量は増加したものの、マアジ、ケンサキイカが減少し、漁獲量は前月の3分の2、生産金額は約半分でした。浦郷港では漁獲量は前月並でしたが、単価の低い魚種が多く、生産金額は4割減でした。

【釣・縄】

浜田港、五十猛港ともにケンサキイカの水揚げが好調です。浜田では過去2ヵ年平均の24%増、五十猛では同じく50%増となっています。これに伴って総漁獲量、水揚げ金額とも先月を大幅に上回り、過去2ヵ年平均と比較しても、10%から30%増となっています。

漁獲統計

平成12年8月1日~31日

| 漁業種類 | 水揚港 | 延隻数・統数 | 主要魚種 | 1隻(統)1航海当漁獲量 | 総漁獲量 |
|-----------------|-----|--------|-------------------------|--------------|--------|
| 中型まき網 | 浜田 | 67 | マアジ | 6.1ト | 410ト |
| | 恵曇 | 115 | ウルメイワシ・カタクチイワシ | 3.2ト | 368ト |
| | 浦郷 | 59 | マアジ | 6.0ト | 354ト |
| イカ釣り (5トン以上) | 浜田 | 968 | ケンサキイカ・スルメイカ | 165Kg | 160ト |
| | 西郷 | 570 | ケンサキイカ・スルメイカ | 95Kg | 54ト |
| 沖合底びき網 | 浜田 | 19 | ムシガレイ・アカムツ | 10.7ト | 202.4ト |
| | 恵曇 | 16 | ムシガレイ・ヤナギムシガレイ・ニギス・アカムツ | 3.2ト | 51.1ト |
| ばいかご | 大田市 | 29 | エッチュウバイ | 575Kg | 16.7ト |
| | 和江 | 11 | エッチュウバイ | 334Kg | 3.7ト |
| | 仁摩 | 18 | エッチュウバイ | 405kg | 7.3ト |
| | 平田市 | 8 | エッチュウバイ | 233Kg | 1.9ト |
| シイラまき網 | 仁摩 | 12 | シイラ・カワハギ類・カンパチ | 2,275kg | 27.3ト |
| | 五十猛 | 38 | シイラ・カワハギ類・カンパチ | 2,200kg | 83.6ト |
| | 和江 | 78 | シイラ・カワハギ類・カンパチ | 3,229kg | 251.9ト |
| | 大田 | 19 | シイラ・カワハギ類・カンパチ | 2,416kg | 45.9ト |
| 定置網 | 浜田 | 68 | マグロ類・カンパチ・マアジ | 314kg | 21.4ト |
| | 恵曇 | 68 | ケンサキイカ・ウルメイワシ・マアジ | 161kg | 10.9ト |
| | 浦郷 | 19 | アイゴ・ケンサキイカ・ソウダガツオ | 861kg | 16.4ト |
| 釣・縄 | 浜田 | 1548 | ケンサキイカ・アマダイ・マアジ | 17kg | 26.1ト |
| | 五十猛 | 717 | ケンサキイカ・カサゴ類 | 27kg | 19.3ト |

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。